

宇宙を旅した花木の種 37日間の飛行を終え帰還

6月4日に米国ケネディ宇宙センターから宇宙へ打ち上げられた、被災地など51自治体の花や農作物の種などが37日間の宇宙飛行を終え、7月10日にフロリダ沖へ帰還しました。地域振興に活用してもらおうと「東北復興宇宙ミッション2021」の一環で行われたこの企画。7月26日には事務局を務めた(一財)フナアースの長谷川^{よういち}洋一代表理事が宇宙フライト証明書を添え、町が託したハマナスやタブノキの種を佐藤信逸町長に手渡しました。町ではこの種を、イベントなどで活用していく予定です。



東京パラリンピックの採火 「山田復興の火」がともる

8月16日、町中央公民館前で東京パラリンピックの採火が行われ、1972年ミュンヘン五輪のボート競技に出場した^{よしお}湊義雄町体育協会会長が、マイギリ式と呼ばれる方法で火をおこしました。木の棒の摩擦で生じた火種からおこした火をランタンに移し「山田復興の火」が点火。湊会長は「この大会が障害のある人、ない人全員の希望となってほしい」と思いを寄せました。県内各地で採火された火は同日、盛岡市に運ばれ一つの火となり、24日東京で行われた開会式で聖火として燃え上がりました。

「児童生徒サミット」に21人 スマホ利用のルール設定訴える

7月30日、「児童生徒サミット」が町中央公民館で開かれ、町内の小・中学校、高校の児童・生徒会の代表21人が参加しました。同サミットは、身近な問題に主体的に取り組む力を高めてもらおうと、町教育委員会が毎年開催しているもので、今年は依存性強い「スマートフォンやゲーム」の利用をテーマに各代表が課題や解決策などを発表。電子機器の長時間使用が引き起こす睡眠不足や視力低下などの問題を取り上げ、制限時間やルール設定の重要性を強く訴えました。



山田中2年生が漁業体験 養殖漁業への理解深める

山田中学校(佐々木^{ひでき}秀毅校長、生徒315人)の2年4組27人は、8月18日に漁業体験を行い、町の基幹産業である養殖漁業への理解を深めました。生徒たちは織笠漁港で、いかだへ吊るすロープにカキの種苗を挟み込む作業に従事。その後、生産者の船で小島付近のいかだへと移動し、カキの生育状況を見学しました。海中からロープが巻き上げられ、15号ほどのカキが次々と現れると、生徒たちは「1年でこんなに大きくなるんだ」と、生産者の説明にうなずき、漁業の魅力を実感していました。



町のわだい

今月の題字 佐藤 舞さん（山田小6年）



公立高校2校が
来町コンサート

変わらぬ支援 音楽の力で



北海道立池田高校吹奏楽部 見事なダンプレで観客を魅了

踊りながら楽器を演奏するダンス&プレーで話題の北海道立池田高校(越坂直広校長、生徒145人)吹奏楽部のコンサートが、8月11日に町中央公民館で開かれ、躍動感にあふれる演奏が観客を魅了しました。同部は震災以降、道内各地で開催したコンサートで義援金を募り本町に寄付。その額は累計700万円以上にのぼり、3年ぶり4回目となったこの日も、義援金9万1,940円が町に届けられました。歌も交えた18曲の見事なパフォーマンスに観客らは変わらぬ支援への感謝の気持ちを込め、大きな拍手を送っていました。



県立不来方高校音楽部 励ましの歌声強く美しく

県立不来方高校(熊谷和浩校長、生徒825人)音楽部の「ふれあいコンサート」が、8月8日に町中央公民館で開かれ、振り付けを交えながらの力強く美しい歌声が会場を包みました。同コンサートは、震災直後から被災地を励まそうと行われているもので、今回で9回目の来町公演。ステージでは「山田町民歌」や「川の流れるように」「花は咲く」など17曲が披露され、観客らは軽快なリズムに手拍子で応えるなど、心にも響き渡る励ましの歌声に聞き入っていました。

